

I 実践

1 研究主題「自分と他者の権利を守り、誰に対しても公正・公平にふるまえる生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、日立市の人権主題をもとにして、①「人権に関する課題を把握し、理解することで、健全な人権感覚や人権意識の育成を図る」②「差別や偏見の不合理性を正しく理解し、差別しない、させない人権尊重の精神を育てる」を目標としている。

①については教師と生徒が、世の中で生じている人権教育の課題は何かということを常に意識し、学んでいこうとするものである。②については、生徒たちがこれから生きていく中で必要な「差別をなくす気持ち」を各教科・領域の全分野において育てていくことである。人権問題について考える機会が少ない、という生徒の実態から本主題を設定した。

(2) 研究の内容

① 人権教育の課題把握（「茨城県人権推進基本計画」から抜粋）

- | | |
|-------------|------------------|
| ア 子供に関すること | オ 同和問題に関すること |
| イ 高齢者に関すること | カ ハンセン病・HIV 感染症等 |
| ウ 障害者に関すること | キ インターネットによる人権侵害 |
| エ 外国人に関すること | |

② 一人一人を大切にした授業の展開

③ 道徳教育の充実

④ 思いやりの心を育てる活動

- ・あいさつ運動
- ・生徒会活動（クリーンアップ滑川(ボランティア活動)、体育祭、潮風祭、各種募金活動)
- ・人権教室（一年生対象）
- ・人権コーナーの設置（各学級、廊下）

2 実践事例

(1) 道徳 単元名「人権について考えよう」（資料 人権作文集、人権メッセージ）

① 単元設定の理由

県では、人権啓発の一環として人権月間を設け、「人権メッセージ」の募集を行っている。

全校で人権メッセージに取り組み、人権について考える時間を設けることは、人権意識を育てる良い機会である。そこで、人権について道徳の授業を全校で一斉に取り組んだ。

② 資料の生かし方

資料は、相田みつをの「いのち」を活用した。自分の命、他者の命を大切にすることを呼びかけ、人権について考える授業であることを生徒にとらえさせた。



③ 考察及び検証

学習活動・内容	活動の様子	テーマに関する考察
1 「人権」とは何か考える。	○自由や命など、人権について思いついたことを自由にグループで話し合った。	○「人権」について自由に話し合うことで、人権のイメージを広げることができた。
2 人権がないがしろにされ、傷つけられている実態について知ろう。 ・いじめ ・差別 ・虐待	○テレビやインターネットで目にした話題などをグループで話し合った。	○人権が侵害されている事例が、自分たちの身近や社会で起きていることを認識できた。
3 「人権メッセージ優秀作品」を読み、人権メッセージのイメージをつかむ。	○小学生、中学生、高校生の作品を通して、彼らの思いに共感する。	○同世代の人たちが、人権を守るために、人権について考えをもっていることを知ることができた。
4 「人権メッセージ」を書く。	○自分の経験をもとに、人権メッセージに真剣に取り組む姿が見られた。 ○軽率な発言をしないようにする、という意見を述べる生徒がいた。	○人権について自分の思いや考えをもつ良い機会となった。
5 教師の説話を聞く。		○軽率な行動が、人権を侵害していることがある、ということを知った。

(2) 人権教室

12月10日(水)に一年生を対象に人権教室が行われた。人権擁護員の方を招き、一時間の講義が各教室で行われた。「笑顔のために」というテーマで、障害のある方との関わり方について考えた。人権擁護員の方の話を真剣な眼差しで聞き、ワークシートに自分の考えをたくさん書く姿が見られた。



(3) あいさつ運動

本校では、あいさつ運動に力を入れている。毎週水曜日は学級ごとに順番で生徒と保護者及びPTA役員、月・火・木は生活委員が担当になっている。金曜日は生徒会役員が昇降口に立ち、登校してくる生徒へあいさつの呼びかけを行っている。また、教員も毎朝7時40分から昇降口に立ち、生徒たちにあいさつをしながら登校指導を行っている。

3 成果

道徳の授業の中に人権メッセージを取り入れることで、人権について知ったり、考えたりする機会を全学級で得ることができた。生徒たちは、身近でも人権が侵害されている現状を知り、社会的に弱い立場にある人々の人権を守る大切さに気づいた生徒も多い。あいさつ運動では、全校で取り組むことで、自らあいさつをする生徒が増えてきている。

II 今後の課題

- ・生徒一人一人の自己肯定感の育成
- ・教職員の人権意識を高める校内研修